

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Gestational weight gain and risk factors for postpartum depression symptoms from the Japan Environment and Children's Study: a prospective cohort study

和文タイトル:

妊娠中の体重増加と産後うつリスクとの関連

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of affective disorders

年: 2021 DOI:

10.1016/j.jad.2021.01.080

筆頭著者名: 山口 明子

所属UC名: 福島ユニットセンター

目的:

産後うつは、母体のメンタルヘルスを損ない、母児間の関係確立の障害となる可能性があります。妊娠期における体重増加と産後うつとの関連については、まだ意見の分かれるところです。今回は、エコチルデータを用いて、日本における妊娠中の体重増加と産後うつとの関連について調べました。

方法:

2011年から2014年のエコチルデータを用い、体格を表す指標のBMIにより妊娠前の体格を5グループに分け、妊娠中の体重増加と産後うつとの関連について統計解析しました。妊娠中の体重増加の範囲に関しては、それぞれのグループで至適・不十分・過多に分けました。考慮する因子は、母体年齢・教育歴・収入・喫煙の有無・分娩歴・分娩形式・母乳育児の中断の有無・心理ストレス・毎日のエネルギー摂取量をあげました。

結果:

80927人の妊婦について解析しました。産後うつについて点数化した、エジンバラ産後うつ問診票が9点以上の場合を、産後うつリスクありとしました。妊娠前のBMIが20.0以上23.0未満のグループでは、妊娠中の体重増加が不十分なことと、産後うつリスクには関連がみられ、体重増加が至適だった場合に比べて1.24倍のリスクとなりました。この結果は、分娩形式・母乳育児の中断・心理ストレス・妊娠中の毎日のエネルギー摂取量といった中間因子にも影響を受けませんでした。他のグループではこの傾向は見られませんでした。

考察:(研究の限界を含める)

今回の調査で、妊娠前BMIが20.0以上23.0未満の女性では、妊娠中の体重増加が不十分なことと、産後うつとのリスクは関連することがわかりました。そのため、このような女性では、妊娠中の体重増加について注意を払う必要があります。本研究の限界点としては、3つ挙げられます。1つは、今回用いた至適体重増加の値は、産後うつリスク以外の周産期合併症についての観点から得られた値であること、また、エジンバラ産後うつ問診票の点数は、産後うつスクリーニングとして用いられますが、高値の女性が必ず産後うつというわけではないこと、3つ目は、虐待歴やパートナーの精神疾患など他の因子についての検討がなされていないことです。

結論:

妊娠前BMIが20.0以上23.0未満の女性では、妊娠中の体重増加が不十分であることと、産後うつとのリスクは関連することがわかりました。このような女性においては、妊娠中の体重増加を注意深く見守ることが、産後うつ早期発見の助けになる可能性があります。